

会議結果報告書

平成30年 3月20日

会議の名称	志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会（第2回）
開催日時	平成30年 3月20日（火）10時00分～11時50分
開催場所	市役所4階 第三委員会室
出席委員	鈴木勇吉委員、園田真見子委員、木下里美委員、中園玉江委員、齋藤美也子委員、大村相哲委員、近藤豊委員 (計7人)
欠席委員	細田恒男委員 岩下隆委員 (計2人)
委員以外出席者	なし
議題	(1) 平成28年度志木市のごみ排出量について (2) 平成29年度事業について ア 家庭系ごみ戸別訪問収集事業 イ 志木市落ち葉銀行事業 (3) その他 ア 牛乳パックとトイレトペーパー交換事業について イ 家庭系可燃ごみの減量について
結果	議題にのっとり事務局より説明後委員より意見をいただき、市民・事業者等の専門的な目線から意見をいただき合意形成が図られた。 (傍聴者0人)
事務局職員	末永課長、樋山副課長、田中主査、古門主任

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1. 開 会 司会：末永課長

2. 会長あいさつ 鈴木勇吉

3. 議題

（1）平成28年度志木市のごみ排出量について

事務局より説明後、各委員より意見質問を頂く

委 員：事業系のごみ搬出量が、増えた要因はなにか

事 務 局：近年本町地区に大型スーパーが2店開業するなど、市内の新規事業店の開業
が要因と考えられます。

委 員：スーパーなどの事業者に対し市から減量化を図る啓発はしているのか。

事 務 局：市内事業所に対し、市として啓発をする予定である、長野県の松本市が大体的に
アピールしていると聞いているが、今後状況を踏まえ啓発をする予定で
ある、広報・ホームページを活用していく。

委 員：事業系のごみ搬出量が増えたことが、切り口によっては、市内の商店・事業
所が活性化されているという捉え方もある、事業所が潰れごみの量が少なくな
ることが良いことなのか、今後は、事業系の1件あたりの搬出量とすべき。

事 務 局：参考にさせていただきます。

委 員：以前、大型スーパーとの交流会があり、事業で出たごみは分別したうえで資
源化されていると聞いている。産業廃棄物と一般廃棄物の違い何か。

委 員：事業系のごみについては、一般家庭から出たごみに近いもの、例えばコン
ビニエンスストアで買い物された、弁当や飲み物を駐車場や店内で食事を
され敷地内で搬出されたごみが一般廃棄物となり、その他のごみについては
産業廃棄物となる。現在もどちらに該当するかの線引きが難しい状況であ
る。

委 員：リサイクル率が低くなった理由は

事 務 局：志木地区衛生組合から報告のあったごみの搬出量から割り返しております。
インターネットからの情報収集が容易にできるようになったことによりペ
ーパーレスが進み、紙の搬出が減少したことが原因ではないかと考えます。

（2）平成29年度事業について

ア 家庭系ごみ戸別訪問収集事業

質疑応答なし

イ 志木市落ち葉銀行事業

委 員：落ち葉銀行事業の期間が11月から翌年の3月までの理由は何か

事務局：落ち葉が出る時期を受け入れ期間としております。

委員：報告で袋の数量を報告したが、今後は重量を報告したほうが良い。

事務局：来年度の事業に向け検討させていただきます。

委員：せっかくの素晴らしい事業なので、回収方法を親と子の市内まるごとクリーン作戦など市のイベントに合わせて回収する等、市のイベントで回収するような事業を進めたほうが良いのでは。

事務局：来年度事業に向け検討させていただきます。

(3) その他

その他について、各委員より意見を求める

委員：志木市環境基本計画が来年度終了を迎え、今後策定するにあたりどのように進めていくのか。

事務局：志木市環境基本計画を策定するにあたり、環境市民会議のメンバーにお願いし、平成30年4月よりコンサルタント業者に委託し市民アンケート調査を実施し、市民参画を図りつつ志木市環境審議会より市長へ答申し意見公募を図ったうえで策定する予定です。

ア 牛乳パックとトイレトペーパー交換事業について

委員：これまで牛乳パック交換事業については、30年間実施され交換品も牛乳パック30枚をトイレトペーパー2個から1個となり、平成30年3月31日をもって終了することが残念です。今後は、交換するのではなく、回収のみを行っては如何か。

事務局：牛乳パックとトイレトペーパー交換事業については、牛乳パックとして搬入し買い取る金額とトイレトペーパーを購入する金額に対し乖離が生じ、市の事業として、一定の目標が果たせたとの判断で廃止に至っております。4月以降は、一般家庭から出る牛乳パックについてはリサイクル資源ごみとしてとして搬出することとなります。また、学校牛乳についてはこれまでどおり回収ルートを活用しリサイクルされることを何卒ご理解賜るよう存じあげます。

イ 家庭系可燃ごみの減量について

委員：家庭ごみの目標を0にすることは無理があり、吟味したうえで目標値を掲げる必要がある、目標を設定するうえで新座市、富士見市と比べたうえで設定されてはどうか。

事務局：家庭系1人1日当たりのごみの減量化が減少しており、埼玉県下のリサイクル率が平成26年度6位、平成27年度9位となっておりますが、今後さらなる分別方法の徹底するよう周知いたします。

委員：可燃ごみの水切り啓発について川と街をきれいにする運動推進協議会のイベントで最初は参加者の方々が驚いていたが、参加する方も固定しているので、他の事業に参加されてはどうか。また、落ち葉銀行事業についても、交換場所をイベント会場内に設けるなどしてはどうか、さらに家庭で落ち葉を土に返すことで循環型社会の形成をなすよう市から発信してもらいたい。

事務局：市の事業に参加するよう担当課と調整し、広報等を活用し落ち葉についても周知してまいります。

委員：氏名・住所等が入っているため、シュレッダーされた紙については、可燃ごみとして処分されているので、個人情報に当たる部分をスタンプして隠すことで、紙資源となることを啓発活動していただきたい。

事務局：貴重な意見をいただきありがとうございます。積極的に啓発させていただきます。

以上